日本山岳会 茨城支部 講演会（第 65 回）

茨城支部では、隔月に１回の
公開講演会を開いています

講演標題

『中国南部（西南地区）貴州省などの小数民族の人たちと その生活』（300枚程の写真によるご紹介）

中間休憩後には『神仏習合の面影を今に残す五箇山白山宮「33年御開帳・式年大祭」（昨５月）の報告』

（これは、前回の講演（昨年９月）「白山山中での昔の暮らしと、かつての白山信仰」の続きに相当：演旨は次頁に）

講 師

日本山岳会（茨城支部）会員　**長岡正利**

最近の社会状況により、３月末頃まで様子を見ていて、延期する可能性もあります。恐縮ですが、お越しの前に、下の「問い合わせ」先にご確認お願いします。

日 時：令和２年４月 11 日（土）午後１時 30 分～３時半頃（受付は 13 時 10 分から）

場 所：JR土浦駅（上野駅から1時間）西口前「土浦市役所」（URARA（うらら）ビル）５階「県南生涯学習センター」内、小講座室 No. 1

入場は無料です。 どうぞ、お越し下さい。　（当日の会場へのご連絡は、Tel.029-826-1101：茨城県南生涯学習センター）

お問い合わせ　日本山岳会茨城支部・事務局 高木康雄 あてに：Tel.029-872-5476

主 催：公益社団法人**日本山岳会 茨城支部**

（中国「貴州省」の位置）

講演の内容

中国の貴州省は、雲南省から東方の湖北省に向かって低くなる、標高1000m前後の、雲貴高原と呼ばれる起伏に富んだ山地になっています。

省の広域には古生代の石灰岩が分布して、中国有数のカルスト地帯（中国南方カルスト）となっており、一部は世界遺産に登録されています。 大きな平地がないことから、「地に三里の平地無し」と言われ、全域が亜熱帯高原であるため、極端な暑さ寒さはないものの、降水量は多く、晴天の日が少ないことから、「天に三日の晴れ無し」。僻遠のこの地は、昔は貧しかったゆえに「人に三銭の金無し」。すばらしい自然に恵まれ、近代化進展の中での心暖かな人達の地です。

貴州省の省都・貴陽市には、明の萬暦帝の時代に、「科挙」合格者が出ることを祈念した高秀楼が現存。

市街地から離れた農山村にも、突然に高層ビル群が出現。

山間部が多く、農耕地の殆どは見事に作られた棚田。（日本でも、むかし、よく見た風景。）

小数民族「苗（ﾐｬｵ）族」の一聚落。下写真の「黔東南苗族侗族自治州雷山県 郎徳苗寨」で。

貴州省の人口は約3580万人で、漢族が63％（約2200万人）。少数民族で多いのは苗（ﾐｬｵ）族397万人で、以下、布依（ﾌﾟｲ）族251万人、土家（ﾄｩﾁｬ）族144万人、侗（ﾄﾝ）族143万人と続きます。省面積の1／2以上が少数民族の自治区域となっています。これらの民俗は、近年、観光資源化されています。〔統計データは中文版Wikipediaより〕

今回は、これらのうちの幾つかの民族の人たちと、その生活を紹介します。なお、民族が同じでも、その聚落（寨；村）が違えば、人々の装いなどは違うのが普通です。下は、苗族の「郎徳」村を訪れた際の写真です。

村の入り口で、歓迎の蘆笙演奏。（貴州省の「郎徳苗寨」で。）

広場の中央での蘆笙。重低音の大笙から、旋律演奏の小型まで。昔が想われる懐かしいメロディの。

蘆笙を囲み、総出での旋廻。

村へ入る前の、お酒でのお出迎え

次回（第66回）は 6月13日（予定）に、真木太一様（九州大学名誉教授）による「75歳・心臓身障者の日本百名山・百高山単独行」

日本山岳会 茨城支部 講演会（第 65 回）:

当日の、休憩のあとの 後半のお話し

五箇山各聚落からの祝賀・ご祝儀の人達

前半は、『中国南部・貴州省の小数民族の人たちとその生活』のお話しでした。
後半、休憩のあとには、前半と同様に、たくさんの写真により、
『神仏習合の面影を今に残す五箇山白山宮「33年御開帳・式年大祭」の報告』を。

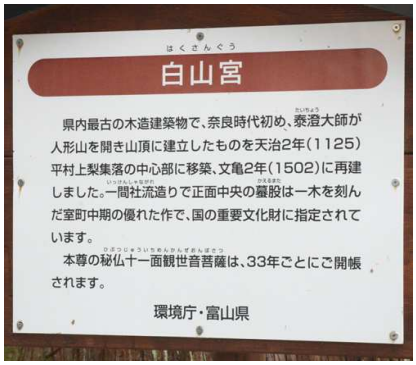
（前回の講演（昨年９月）「白山山中での昔の暮らしと、かつての白山信仰」の続きです。）

（内容は、昨年11月の「日本山岳文化学会 17回大会」での一般講演に、紹介写真を更に増補したものです。）

石川・福井・岐阜県にまたがる白山は、伝承に拠れば、越前の修験僧・泰澄（たいちょう）が養老元（717）年に開山したとされ、それから1300年目の2017年には、福井・石川・岐阜県などの関係の各地で「白山開山1300年祭」が華やかに催されました。

古来の白山信仰（白山修験）は、天台密教系の、神仏習合のかたち（十一面観音菩薩を本地仏とし、その垂迹神が白山（妙理）大権現）でした。しかし、全国におけると同様に、慶応4（1868）年3月の神仏判然令（分離令）によって、神社と寺院の分離独立とその僧侶の還俗や、仏像を御神体とすること等も禁じられました。一方では、五箇山（ごかやま）の白山宮（富山県南砺市上梨（かみなし））では、神社ではあるものの、その「ご本尊」には「秘仏・十一面観音菩薩」があって、近年は33年ごとにご開帳がおこなわれてきました。ここでは、昨年５月のそのもようを、多くの写真で紹介します。

この白山宮は、伝承に拠れば、白山開山の泰澄が人形山に白山菊理媛命（しらやまくくりひめのみこと）を勧請・建立したものといわれ、後に現在の上梨聚落に移設して、文亀2（1502）年に再建されたもの（棟札の記述による）で、国指定の重要文化財です。



白山宮の鳥居前には御開帳標札と、重文説明にも「33年御開帳」の旨が。

御開帳の早朝に、拝殿と本殿鞘堂板戸を開放。
右は、本殿正面上の、鎌倉時代初期の様式の蛙股。

御開帳が始まって、五箇山各聚落からの獅子舞が次々に奉納される。

拝殿では、子供達による「こきりこ踊り」を奉納。

上梨地区の人達が、正装で、次々に御開帳を拝観。右仮設では宝物展示。

国重文「合掌造り/村上家」での「こきりこ踊り」（ご開帳とは別機会）

（この踊りと衣裳の復元は昭和 26 年）

ご開帳については、養老元年の泰澄による創祀と伝わる平泉寺白山神社でも33年ごとに行われてきており、次回は2025年です。一方では、若き日の泰澄が遙かに白山を望んで登峰・開山を志したと伝わる越知山（おちさん）大谷寺（福井県越前町大谷寺）でも、15年前後の間隔をおいてのご開帳が行われて来ています（前回は昨年11月2-4日）。

白山宮の秋季例大祭は毎年９月 25・26 日で、行政側による「こきりこ祭り」も同日です。
「ご開帳」以外は、ほぼ同じものが見られますので、皆様、どうぞお越し下さい。

（右写真は秋季例大祭の一部）

当日昼の奉納踊りと、

昔からと同様に、夜の訪れと共に始まる五箇山白山宮の秋祭り